

日本中世の風俗画における 図像の引用と変容

「月次風俗図」のイコノロジー

四季の変化とともに人々の日々の営みを描く風俗画は日本中世において好んで描かれたジャンルである。そのような絵画のなかには類似する図像が見られ、先行作品から図像を引用して画面が構成されていることが多い。

「月次風俗図屏風」(旧岩国藩主吉川家に伝来、東京国立博物館蔵)は、そうした図像の引用に留まらず、他には見られない図像を積極的に描きながら独特の世界観を築き上げている。

京都の都市図とも言える「洛中洛外図」などの同時代の風俗画との比較を通して、「月次風俗図屏風」に編み込まれた図像の意味を読み解いていきたい。

◆日 時: 2013年7月4日(木) 15:30-17:00

◆報告者 井戸 美里(東洋文化研究所・特任助教)

◆会 場: 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 3F 大会議室

◆参加費: 無料(申し込みは不要です)

◆問い合わせ: 電話: 03-5841-5868 E-mail: asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp

東文研・ASNET共催セミナー

東洋文化研究所とASNETは毎週木曜日の夕方にセミナーを開催しています。どなたでもご参加頂けます。皆様のお越しをお待ちしております。詳しくはこちら: <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

東大ASNET

検索



東京大学

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

